



特集

活断層と生きる

熊本地震で布田川断層がどのように動いたのか。平成8(1996)年に布田川断層の掘削調査が行われた田中地区で、再度調査が行われ、熊本地震によって地下の断層が実際に動いたことが確認されました。大地震の前後で実際に断層が動いたことを確認したのは、アメリカ、ニュージーランドに続き世界で3例目。国内では初めての事例です。

**熊本地震前にも確認
されていた布田川断層**

**国内初 地震前後で
同じ地層断面を調査**

平成7(1995)年に発生した阪神淡路大震災以降、地震を予測するため全国各地で活断層調査が行われ、本町の田中地区においても、平成8(1996)年に県の調査で、布田川断層が確認されていました。しかし、熊本地震発生前、布田川断層帯布田川区間の30年以内の地震発生確率は、ほぼ0.9%とされていました。

また、地形から判断し活断層があると思われる場所を示す活断層図では、熊本地震の前にも布田川断層の位置が示されていましたが、実際に熊本地震で地表が割れた部分は、示された位置から幅が数十メートル、大きい所で百メートルに達している所もありました。

東北大学と熊本大学の合同調査チームは今年の8月末から約1カ月、平成8年に県が調査した田中地区の地層断面を再度掘削し、調査を実施。その結果、平成8年の調査で確認されていた断層を境に、熊本地震で30〜50センチほどの横ずれが生じていることが確認されました。

今回の調査では地域、県、熊本地方気象台それぞれが保管する剥ぎ取り標本を作成。防災・減災教育などに生かされる予定です。

本特集では、調査の意味や剥ぎ取り標本の作成過程、調査溝の保存・活用に取り組む地元団体の設立に力を注ぐ人の思いを紹介いたします。